

# 教室の外でも、 学ぶ意欲を 刺激する

伝える力・考える力の  
育成をめざした  
多様なタブレット活用



## 那須町教育委員会

住所：栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13  
URL：http://www.town.nasu.lg.jp/

栃木県那須町は少子高齢化が進み、学校適正配置などの教育課題を抱えている。そのため、行政・学校・地域住民がつながるコミュニティ・スクールを設立し、地域で教育を支える取組みを開始した。2016年度からは、ICT整備にも着手しタブレットを導入。校外学習など教室の外でもタブレットを活用し、子どもたちの学ぶ意欲を刺激している。



[取材協力]那須町立高久小学校



### 目的

- 2020年に向けて学校のICT化を低予算で実現したい
- 校内だけでなく校外学習でも情報端末を活用したい
- 町で資産を保有せずシンプルに管理したい

### アプローチ

- LTEモデルのタブレットで整備にかかるコストを削減
- コンテンツをクラウド化することで校外でもつながる環境を実現

## 無駄のない運用ができると判断、セルラーモデルを選択

栃木県那須町は、人口減少による少子高齢化にともない学校適正配置を進めている。一方で、地域社会を担う人材育成も課題であり、より良い教育環境を提供すべく、地域住民の専門性や技術を活かした那須町版コミュニティ・スクールを立ち上げた。行政と住民、教育機関がつながることで、学校と地域が連携した多様な教育活動を実践していく方針だ。そのためのツールとしてICT整備にも乗り出した。

### マイナス面がプラスに働いた



井上文浩氏

とはいえ、那須町はこれまでICTに関しては、文部科学省が示す整備目標には達していない状況であった。ICTの整備を開始したのは2015年度からで、先行自治体の導入事例を参考にしながら検討を進めたという。教育委員会指導主事の井上文浩氏は「他の

自治体より整備が遅れていたことはマイナス面でしたが、先行事例をもとに導入時の課題面やうまくいかなかったことを参考にしながらICT整備を進めることが



できました。結果としてプラスに働いたと考えています」と語る。

井上氏はタブレット導入について「子どもの数が減り、学校も統廃合を進めているなかで、校舎にWi-Fi環境を整備するのはコストが合わないと考えました」と語る。それよりも、地域の必要な場所で、必要な時に使えるセルラーモデルの方が、学校の状況や教育活動に合わせた無駄のない運用ができると判断したという。那須町では2016年に町内の高久小学校をモデル校に選び、30台のタブレットを導入してICT活用を本格スタートさせた。

# 校外学習で記録写真を撮影、バスのなかで発表スライドにまとめる

## タブレットで子どもたちの学習意欲が高まる



モデル校となった那須町立高久小学校では、タブレット導入から約1年が過ぎた。同校でICT活用を推進する石倉史郎教諭は「タブレットを使う授業の方が子どもたちの意欲が高まると感じています」と手応えを語る。資料の提示がしやすく視覚的に訴えることができたり、紙に印刷しなくてもインターネットから必要な情報にアクセスしたりと、児童が主体的にかかわる場面が増えているというのだ。

なかでも石倉教諭は、校外学習の時にタブレットを活用できる

ことが良いと話す。以前は、教師が持つカメラ1台を記録写真用に使っていたが、その当時と今とでは、比べものにならないほど多様な学習活動ができているというのだ。「帰りのバスのなかで、子どもたちが撮った写真を使って簡単なまとめや発表スライドを作成している姿を見た時は驚きました。求めた以上のことを、子どもたちはできるようになると感じました」と石倉教諭は語っている。

## 口で説明するよりも動画で伝えた方がわかりやすい

高久小学校ではほかにも、体育館や理科室、地域散策や土曜授業など、タブレットの活用範囲を教室内に限定せず、あらゆる教育活動に活用している。児童会で地域のお年寄りを招いて一緒にゲームをした時は、ルールを説明する動画を作成し内容を分かりやすく伝えた。石倉教諭は「子どもたちの方から、口でルールを



社会科見学（福島県白河市 まほろん）

説明するよりも動画で伝えた方がわかりやすいという意見が出ました。考えたアイデアをすぐに形にしやすのがタブレットのメリットですね」と話す。

## 伝える力・考える力を育むタブレット活用をめざす

もちろん高久小学校では、普通の授業でもタブレットを活用している。石倉教諭が受け持つ6年生算数の授業では、児童がノートに書いた解答をタブレットで写真に撮り、授業支援ツールを用いて共有や発表を行っている。「自分の考えを持つことができない限り、仲間と交流することは難しいです。その点、タブレットを使うようになってから、表現をする機会が増えたので自分の考えを持てるようになりました。伝える力・考える力も伸びてきて発表の



左：石倉史郎教諭 右：増淵尚校長

スタイルが大きく変わってきたように感じます」と述べている。

高久小学校の増淵尚校長は、これまでのタブレット活用を振り返り、子どもたちが学習用途としてきちんと使えていることを評価しているという。「今までのパソコン教室やICTツール

は、わざわざ感があり、学習中も振り回されるが多かったのですが、タブレットの場合は普通教室で、いつでもどこでも必要な時に使えるのが良いですね」と増淵校長は語る。その一方で、子どもたちがICTだけに頼ることがないように、学校では体験を通した学びを取り入れて充実した学びを提供していくことが重要だというのだ。



今後の展望として増淵校長は、「アクティブ・ラーニングの学習場面で活用を増やしつつも、プログラミング教育や英語教育を加速していきたいです」と語っている。次期学習指導要領の本格実施に向け、那須町のモデル校としての取組みをさらに進めていく考えだ。

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）

受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを！

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)



※本チラシの内容は2017年7月取材時点のものです。